

令和5年度 りんご病害虫防除暦

ながのブロック

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍 率	散布量 (10a当り)		対象病害虫 * 太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
					(動噴)	(SS)				
1 発芽10日前 月 日	— 1 —	水	100 ℓ		450 ℓ	350 ℓ	腐らん病 ハダニ カイガラムシ	—	—	○ベンレート水和剤に替えて石灰硫黄合剤10倍を使用する場合は水88ℓにスプレーオイル(2ℓ)を先に溶かし、石灰硫黄合剤(10ℓ)を後から加える。 ○温暖無風な日を選び幹や枝を洗うように散布する。 ○腐らん病、いぼ皮病(輪紋病)の患部はきれいに削り塗布剤を塗布する。 また、剪定はデベソ切りをせず切り口にはトップジンMペースト等を塗布する。
		展着剤(マイリノール)	5 mℓ	20,000 倍						
		ベンレート水和剤	50 g	2,000 倍						
		スプレーオイル	2 ℓ	50 倍						
2 うどんこ病 と黒星病の 重要防除 (展葉期) 月 日	M7	Ⓢ ベフラン液剤25	100 mℓ	1,000 倍	450 ℓ	350 ℓ	黒星病 腐らん病 うどんこ病 (ハダニ) (カイガラムシ)	展葉期	3回以内	○展葉期とは、2~3の芽に完全に開いた葉を認めた日。散布期間は展葉 始まりから7日以内を目安に散布を行う。 ○発芽10日前に上記散布が出来なかった場合スプレーオイル100倍 (1ℓ・展葉期)を加用散布する。 ○葉害防止のため、スプレーオイルの希釈倍率は間違えないように注意する。 ○カイガラムシが散見される園では、アプロートフロアブル1,000倍(100mℓ・30日前まで) を加用散布する。 ★開花期までに降雨日が続く場合は、黒星病対策として2回目の防除実施 から7~10日後にストライト顆粒水和剤1,500倍(66g)を特別散布する。
3 開花始め (1~2分咲) 月 日	— 28 52	水 展着剤(マイリノール) サムコルフロアブル10 ミギワ20フロアブル	100 ℓ 5 mℓ 20 mℓ 25 mℓ	 20,000 倍 5,000 倍 4,000 倍	600 ℓ	500 ℓ	黒星病 (赤星病) うどんこ病 ハマキムシ ケムシ類 (キンモンホリガ)	前日まで 前日まで	— 3回以内 3回以内	○赤星病の発生が心配される園ではスコア顆粒水和剤3,000倍(33g・14日前まで) を加用散布する。

4	落花期	水	100 ℓ				黒星病 赤星病 黒点病 うどんこ病 (腐らん病) (ハマキムシ) (ケムシ類) (キンモンホリガ) (カメムシ) (アブラムシ)	前日まで	3回以内	○この散布は前回から10～14日以内に行う。 ○アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF2,000倍(50g・14日前)を加用散布する。 ○クレミクスネオに替えてスピットII(200g)を使用しても良い。 ○ケムシ類の発生が多い場合はチューンアップ顆粒水和剤2,000倍(50g・前日まで)を加用する ○黒点病の発生が多い場合はトレノックスフロアブル500倍(200ml・30日前まで)を加用散布する。
7	⑩	カナメフロアブル	25 ml	4,000 倍	600 ℓ	500 ℓ				
	月 日	クレミクスネオ	300 g							
<p>★ふじの薬剤摘果は、結実確保された時点(授粉後2日後)より1日おきに石灰硫黄合剤120倍(830ml・2回以内)またはエコーキー100倍(1kg・2回以内)を散布する。 ★ふじの薬剤摘果には、満開から14日後頃(目通りの中心花の横径が大半8～10mmの時)に⑩ミクロテナボン水和剤85 1,200倍(83g)を散布する。尚、展着剤はアブローチBI 300倍(333ml)または、ニース1,000倍(100ml)を使用する。 ★ナシヒメコンを設置する場合は、4月下旬までに10a当り100本を、樹の目通りの高さに設置するとナシヒメシクイに効果ある。</p>										
5	5月中下旬 前回散布より 2週間以内 落花15日	水	100 ℓ				黒星病 褐斑病 炭疽病 赤星病 黒点病 斑点落葉病 アブラムシ シクイムシ ハマキムシ リンゴワタムシ キンモンホリガ (カメムシ) (ハダニ) (クワコナカイガラ)	30日前まで 前日まで	— 3回以内 3回以内	○クレミクスネオに替えてスピットII(200g)を使用しても良い。
M3	4	展着剤(マイリナー)	5 ml	20,000 倍	600 ℓ	500 ℓ				
	月 日	ジマンダイセン水和剤	200 g	500 倍						
		ダントツ水和剤	50 g	2,000 倍						
		クレミクスネオ	300 g							
6	6月上旬 前回散布より 2週間以内	水	100 ℓ				黒星病 褐斑病 炭疽病 赤星病 黒点病 斑点落葉病 (アブラムシ) シクイムシ類 ハマキムシ類 リンゴワタムシ キンモンホリガ クワコナカイガラ カメムシ (ハダニ)	45日前まで 14日前まで	— 4回以内 1回	○間断なく降雨が多い場合は10日間隔で散布する。 ○褐斑病、すす点・すす斑病の発生の恐れがある園ではコサイド3000、2,000倍(50g)又はZボルドー500倍(200g)+クレフノン100倍(1kg)を加用散布する。 (クレフノンは薬害軽減のため使用) ○カイガラムシの発生が見える園ではアブロードフロアブル1,000倍(100ml・収穫30日前2回まで)を加用散布する。 ○ハダニの発生が見られる場合にはアカリタッチ乳剤2,000倍(50ml・収穫前日まで)を加用散布する。ただし、アカリタッチ乳剤を使用するときは展着剤は加用しない。 ○アブラムシの発生が多い場合はウララDF 2,000倍(50g・14日前)を加用散布する。 ○10回目防除まで果実の持ち性向上と、ビターピット、コルクスポットの発生軽減のためにカルシウム剤(スピットII 500倍)を混用する。カルシウム剤の混用は薬剤調合の一番最後にする。
M3	1	展着剤(マイリナー)	5 ml	20,000 倍	600 ℓ	600 ℓ				
	月 日	アントラコール顆粒水和剤	200 g	500 倍						
		サイアノックス水和剤	100 g	1,000 倍						
		クレミクスネオ	300 g							

7 輪紋病・炭疽病対策 6月中下旬 前回散布より 14日以内 月 日	M4+M1	4	水	100 ℓ							※炭疽病、褐斑病対策として散布ムラがないように防除する。 ○ オキシラン水和剤に替えて、ラビライト水和剤 500倍(200g・30日前まで) + オンリーワンフロアブル 2,000倍(50mℓ・7日前まで)を使用しても良い。	
			展着剤(アビオンE)	50 mℓ	2,000 倍							
			Ⓜ ハリアート顆粒水和剤	50 g	2,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	前日まで	3回以内			
		1	オキシラン水和剤	200 g	500 倍			14日前まで	4回以内			
			トップジンM水和剤	100 g	1,000 倍				前日まで	6回以内		
			ストビットII	200 g								
8 7月上旬 前回散布より 14日以内 月 日	28 11 9 9		水	100 ℓ							○干ばつ防止に草の刈り込みと敷きワラを行う。 ○散布前に支柱立て、枝吊りを行う。 ○ニセアカシアやクミなど炭疽病の伝染源となる樹木との隣接園では、 感染が始まる重要な時期なので特に丁寧に散布する。 ○エコマイト顆粒水和剤に替えてダニゲッターフロアブル2,000倍(50mℓ・ 前日まで)を使用しても良い。	
			展着剤(スカッシュ)	100 mℓ	1,000 倍							
			エクシレルSE	20 mℓ	5,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	前日まで	3回以内			
			フリントフロアブル25	50 mℓ	2,000 倍			前日まで	4回以内			
			ユニックス顆粒水和剤47	50 g	2,000 倍			14日前まで	4回以内			
			エコマイト顆粒水和剤	50 g	2,000 倍				7日前まで	1回		
			ストビットII	200 g								
9 7月中下旬 前回散布より 14日以内 月 日	M7+M4	20	水	100 ℓ							○ナミハダニの発生が多くなる時期なので散布量を十分に取り、散布ムラの 無いように防除する。又、ダニ防除の効果をも上げるため散布の3日位前 に草の刈込みを行う。 ○カキリムシの発生が多くなる時期なので捕殺に努める。 (日没から2時間位) ○マイトコーネフロアブルに替えてカネマイトフロアブル1,000倍(100mℓ・7日前まで) を使用しても良い。 ★第9回目以降の防除は、収穫期の防除となります。薬剤の収穫前 使用日数や防除薬剤の飛散に注意して防除して下さい。 ○降雨が多く褐斑病の発生の恐れのある園ではオンリーフロアブル2,000倍 (50mℓ・7日前まで)を加用散布する。ただし早生種には散布しない。	
		4	展着剤(スカッシュ)	100 mℓ	1,000 倍							
			マイトコーネフロアブル	100 mℓ	1,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	前日まで	1回			
			Ⓜ モスピラン顆粒水溶剤	50 g	2,000 倍			前日まで	3回以内			
			ダイパワー水和剤	100 g	1,000 倍			前日まで	3回以内			
			ストビットII	200 g								

10 8月上旬 月 日	M7 3 M4 12	水 展着剤(マイリノール) ヘルコートフロアブル アーデントフロアブル オーソサイド水和剤80 オマイト水和剤 ストピットII	100 ℓ 5 mℓ 66 mℓ 50 mℓ 125 g 133 g 200 g	20,000 倍 1,500 倍 2,000 倍 800 倍 750 倍	600 ℓ	600 ℓ	輪紋病 炭疽病 斑点落葉病 黒点病 すす点・すす斑病 褐斑病 ハダニ アブラムシ シンクイムシ キンモンホソガ (キンモンハモグリガ) (カメムシ) (リンゴワタムシ) (クワコナカイガラ)	前日まで 前日まで 前日まで 3日前まで	3回以内 3回以内 6回以内 1回以内	○アーデントフロアブルに替えてアーデント水和剤1,000倍(100g・前日まで)を散布しても良い。 ○散布後3日間は収穫を行わない。
11 8月下旬 月 日	11+7 4	水 展着剤(マイリノール) ナリアWDG Ⓜ ハリアード顆粒水和剤	100 ℓ 5 mℓ 50 g 50 g	20,000 倍 2,000 倍 2,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	輪紋病 斑点落葉病 炭疽病 すす点・すす斑病 褐斑病 ハダニ シンクイムシ キンモンホソガ キンモンハモグリガ アブラムシ リンゴワタムシ	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	○ハダニの発生が見られる場合にはアカリッチ乳剤2,000倍(50mℓ・収穫前日まで)を加用散布する。ただし、アカリッチ乳剤を使用するときは展着剤は加用する必要はない。
12 9月上旬 月 日	3 P7+M4	水 展着剤(マイリノール) Ⓜ イカスチWDG アリエッティC水和剤	100 ℓ 5 mℓ 66 g 125 g	20,000 倍 1,500 倍 800 倍	600 ℓ	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 黒星病 褐斑病 すす点・すす斑病 アブラムシ シンクイムシ ハマキムシ キンモンホソガ キンモンハモグリガ	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	○アリエッティC水和剤を使用するときは、薬害防止のため展着剤スカッシュは使用しない。葉の黄変症状が発生する場合あり。 ○ハダニの発生が見られる園ではコロマイト乳剤1,000倍(100mℓ・前日まで)を加用散布する。
13 9月下旬 月 日	M7 5	水 展着剤(マイリノール) Ⓜ ヘフラン液剤25 ティアナWDG	100 ℓ 5 mℓ 66 mℓ 10 g	20,000 倍 1,500 倍 10,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 (炭疽病) 黒星病 褐斑病 すす点・すす斑病 シンクイムシ類 キンモンホソガ キンモンハモグリガ アブラムシ (リンゴワタムシ)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	○スモヒジクイ・すす病の果実被害が心配されるため、この防除は必ず実施する。 ○有袋栽培では除袋後この防除を実施する。(シンクイムシ食入防止) ○ワタムシの発生が多い園では、ティアナWDGに替えてダントツ水溶剤2,000倍(50g・前日まで)を散布する。 ○Ⓜヘフラン液剤25に替えて、ストライト顆粒水和剤1,500倍(66g・前日)を使用しても良い。

14 10月上旬 月 日	M4	水 展着剤(マイリナー) オーソサイド水和剤80	100 ℓ 5 mℓ 125 g	20,000 倍 800 倍	600 ℓ	600 ℓ	すす点・すす斑病 黒星病 斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 褐斑病	前日まで	6回以内	○黒星病の秋季感染を予防し、越冬する菌密度を下げる重要な防除です。 収穫が終了している圃地も含めて防除を実施する。
越年雑草の抑制に、ラウンドアップマックスロードの秋冬季散布を洛陽前に100～200倍で実施する。(10a当たり薬量 500mℓ～1,000mℓ)										
15 12月初旬 月 日	M2	水 固着剤(アピオンE) 石灰硫黄合剤	90 ℓ 50 mℓ 10 ℓ	2,000 倍 10 倍	450 ℓ	350 ℓ	腐らん病	休眠期	—	○腐らん病発生の多い圃では必ず散布する。